

二松學舎大学 東アジア学術総合研究所 共同研究プロジェクト
沖山光研究会企画ワークショップ

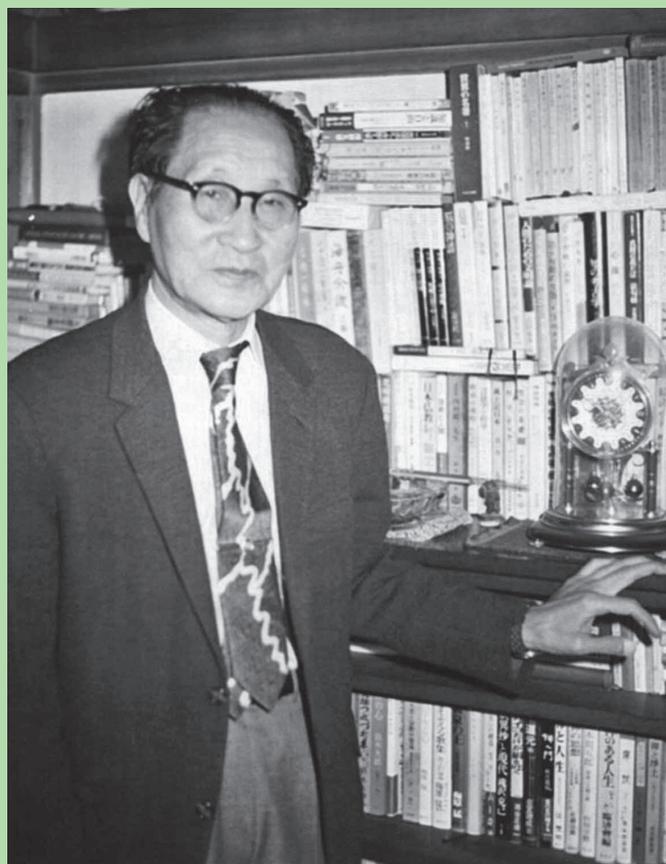
[おきやま ひかる]

沖山 光

近代国語教育に遺した足跡

2015年2月14日(土) 14:00~16:30

二松學舎大学 九段校舎1号館2階201教室
〈事前申込不要・来聴歓迎〉



司会 [二松學舎大学文学部] 榎本善紀

講演1

二松學舎専門学校時代の沖山光

[二松學舎大学文学部] 磯 水絵

講演2

沖山光と構造学習論の創造

[全国構造学習研究会常任講師] 樋田 明

沖山光 (おきやま ひかる / 1905~90)

明治38年(1905)、東京に生まれる。大正14年(1925)東京府青山師範学校本科第一部を卒業後、港区桜川小学校訓導となり、翌年早稲田大学文学部全科修業。昭和3年(1928)東京青山師範附属小学校訓導、同6年(1931)二松學舎専門学校本科(夜間)卒業。

戦後、文部省において教科書の編纂、学習指導要領、「筆順の手びき」の作成等に携わり、文部省初等中等教育局筆頭教科調査官を勤めた。教育行政に携わる傍ら、昭和33年(1958)、『意味構造に立つ読解指導』を上梓、国語教育において構造的読解指導を提唱し、国語教育界に大きな影響を与えた。平成2年(1990)没。

二松學舎大学 東アジア学術総合研究所 共同研究プロジェクト
沖山光研究会企画ワークショップ

沖山 光

——近代国語教育に遺した足跡——

このプロジェクトは、磯水絵・小淵朝男・榎本善紀・太田由紀夫・樋田明の五人で進めている。二松學舎専門学校時代に学んだ沖山光は戦後の小学校国語教科書の作成に直接関わった国語教育畑の大先輩である。その先輩に光を当て、その足跡を記録していこうというのが、その目的である。

講演2の要旨から

沖山光と構造学習論の創造

樋田明

今日、学習の方法に関する理論や実践研究は多岐に渡っていますが、ここでとり上げる構造学習論もその中の一つです。本学出身者である沖山光が文部省教科調査官だった昭和33年に『意味構造に立つ読解指導』（明治図書出版）を著し、構造的読解指導という方法を提唱しました。

この国語科における「構造的読解」指導は、いわゆる「沖山方式」と呼ばれ、昭和30年代の教育現場に一大読解ブームを巻き起こしたと言われていています。その方法の根底にあったのは、文章に即して意味構造をとらえ、書き手の表現意図を読みとることですが、それと併せて学習者が自ら思考操作をすることによる「ひとり歩き」の学習のプロセスに重点が置かれていることに大きな特徴がありました。

後に構造思考トレーニングを位置づけることにより、文章の読解だけでなく各教科・領域の学習活動の方法につながる構造学習論として展開されるようになります。

主体的に学ぶことは、今日も重要な教育課題の一つであり、沖山の学習論から学ぶ意味は深くて大きいものがあると考えます。

(講演の流れ)

- 1 教師への呼びかけ
- 2 学習論創造への芽生え
- 3 構造的読解の提唱と確立のプロセス（具体操作を含めて）
- 4 今日の課題との接点

樋田明プロフィール

中央大学大学院博士課程（前期）修了。東京都公立小学校長、明星大学教育学部非常勤講師を経て定年退職。現在、全国構造学習研究会常任講師。

所属学会：国語教育史学会、日本教育方法学会。